

参考資料5

原幸太郎氏ご提供資料

(警察学論集：タイにおける邦人行方不明被災者の搜索活動（抜粋）)

タイにおける邦人行方不明被災者の捜索活動(上) ——スマトラ沖大地震及びインド洋津波——

原 幸太郎

(前 在タイ王国)
日本国大使館一等書記官
沖縄県警察本部警備部長)

	I はじめに
目	II 津波発生直後から今日まで
	III 国際協調の中の邦人援護業務 (以上、本号掲載)
	IV 遺体の特定と返還
次	V 活動における諸問題
	VI 将来の危難に対処するために
	VII おわりに

I はじめに

2004年12月26日、スマトラ沖で発生した大地震とそれに伴う津波は、インド洋一帯に甚大な被害をもたらした。全域の死者・行方不明者は、少なく見積もっても23万人以上、タイ国内でも死者・行方不明者約5千4百人、負傷者約8千5百人に上り、その中には多数の邦人が含まれる。最終的に、邦人の行方不明者・死亡者数は、29名に上った¹⁾。

この津波被害においては、我が国を含め、各国政府、国際機関、NGO等が被災者の救済活動を実施した。これら活動については、多くの報告書が公表されており、特段説明を要しないと考えるが、死亡者の特定作業が困難を極めたことは余り知られていない。

筆者は、在タイ王国日本国大使館に警察アタッシェとして2003年6月より赴任し、津波発生後行方不明被災者の身元特定活動に参画したものであるが、経験や聞知した情報のうち、公にすることが適当と判断した

〔警察学論集 第61巻第1号〕

タイにおける邦人行方不明被災者の搜索活動(下)

——スマトラ沖大地震及びインド洋津波——

原 幸太郎

(前在タイ王国
日本国大使館一等書記官
沖縄県警察本部警備部長)

	I はじめに
目	II 津波発生直後から今日まで
	III 国際協調の中の邦人援護業務 (以上、前号掲載)
	IV 遺体の特定と返還
	V 活動における諸問題
次	VI 将来の危難に対処するために
	VII おわりに

IV 遺体の特定と返還

1 身元不明遺体の特定方法

さて、ここで身元不明遺体の特定方法とは科学的にどのような手段があるのか概説しておきたい。顔相、所持品又は着衣からの特定は、これらの情報が検索手段として非常に有用ではあっても、それだけで最終的な判断を下すことは極めて危険である。この危険を極小化するためには、次のいずれかの情報が一致することが必要となる。すなわち、歯科的情報、指紋情報又はDNAである。一致するとは、AM情報及びPM情報を比較した結果、双方のデータが同一であるか、又は双方の相違点について矛盾なく説明が可能であることを意味する。もちろん、これらの指標が万能で、全く誤りをもたらす余地がないということではないが、これまでの遺体特定作業における経験や科学技術の発達により、最も信頼がかけられるということである。

参考資料6

災害時歯科・口腔保健医療往診用「診療車」の貸し出しについて

(日本大学松戸歯学部)

資料6:このページの内容を掲載するに際し、日本大学松戸歯学部・鈴木浩司氏にご協力いただいたものです(許諾日2008年3月11日)。

中久木班・星(分担報告書)資料

災害時歯科・口腔保健医療往診用「診療車」の貸し出しについて (日本大学松戸歯学部)

日本大学松戸歯学部では、災害などの有事に地方自治体等への「診療車」の貸し出しを行います。(参考資料:「診療車」の写真1～5)

- * この「診療車」について
阪神・淡路大震災の際に、民間会社より兵庫県歯科医師会や神戸市歯科医師会に貸し出して使用していたものを、その後、日本大学松戸歯学部が購入したものです。
- * これまでの使用例

- 1) 防災の日に、さいたま市の荒川河川敷で開催される関東合同防災訓練に出動。
- 2) 松戸歯学部ではスポーツ・睡眠歯科が大会教護として参加する大会にて使用。
(2002年インターハイ茨城大会空手会場、2005年インターハイ千葉大会空手会場、(財)全日本空手道選手権(日本武道館)等)
- 3) 日大付属校スポーツ学生に対するマウスガード普及の目的で日大山形、土浦日大、佐野日大へ出向き使用。
- 4) 新潟で行われる大規模調査に使用(2008年で終了)。

* 装備品

歯科ユニット、レントゲン室、発電機、水槽タンク(使用時に注水の必要あり)
(ガス・仮眠用ベット等はなし)

* 定員 2名(運行時)

* お申し込み方法:

日本大学松戸歯学部・学部長宛に使用申込の希望書(書式自由)を提出していただき、使用日時、使用目的、使用する人等の記入をお願いします。

* お問い合わせ:

資料6:このページの内容を掲載するに際し、日本大学松戸歯学部・鈴木浩司氏にご協力いただいたものです(許諾日2008年3月11日)。

<事務手続きについて>

日本大学松戸歯学部・庶務課課長

〒271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-870-1

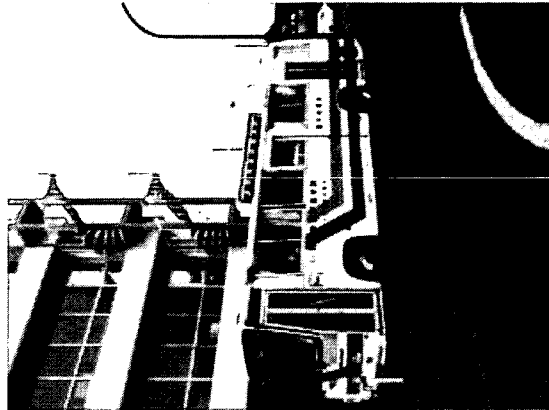
TEL 047-360-9200, 047-368-6111(代表) FAX 047-364-6295

<使用方法や使用経緯等について>

日本大学松戸歯学部・スポーツ・睡眠健康歯科 鈴木浩司

- * ここに掲載されたコンテンツは、厚生労働科学研究・地域健康危機管理研究「大規模災害時における歯科保健医療の健康危機管理体制の構築に関する研究(主任研究者:中久木康一)」の一環で情報収集されたものです。
- * このコンテンツは、日本大学松戸歯学部より掲載許諾をいただき、ご協力いただいたものです(許諾日2008年3月11日)。

* 「診療車」の写真1

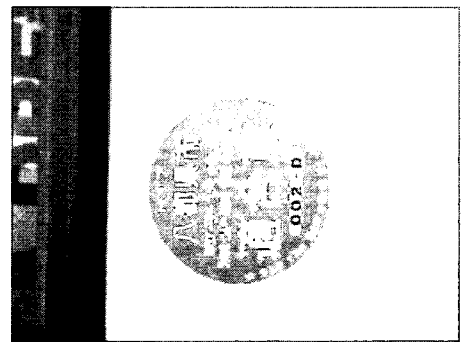


資料6:このページの内容を掲載するに際し、日本大学松戸歯学部・鈴木浩司氏にご協力いただいた
ものです(許諾日2008年3月11日)。

* 「診療車」の写真2



* 「診療車」の写真3

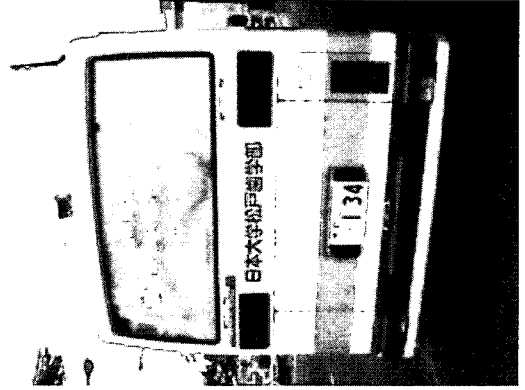


資料6:このページの内容を掲載するに際し、日本大学松戸歯学部・鈴木浩司氏にご協力いただいた
ものです(許諾日2008年3月11日)。

* 「診療車」の写真4



* 「診療車」の写真5



Ⅱ - 9 拡大班会議（ワークショップ）報告

分担研究者	星 佳芳	（国立保健医療科学院 研究情報センター情報デザイン室長）
主任研究者	中久木康一	（東京医科歯科大学 顎顔面外科学分野 医員）
分担研究者	鶴田潤	（東京医科歯科大学 歯科教育開発学分野 講師）
分担研究者	小城明子	（東京医科歯科大学 高齢者歯科学分野 助教）
研究協力者	村井真介	（東北大学大学院 社会医学講座 国際保健学分野）
研究協力者	小室貴子	（歯科衛生士）
研究協力者	横溝一郎	（東京医科歯科大学 顎顔面外科学分野 非常勤）

研究要旨：

災害時歯科保健医療従事者/栄養士活動に関して、先行研究を行っている研究者、および、災害時に既に活動を行った経験のある者の講演を拝聴する機会として、ワークショップを開催した。また、中久木班の班員の研究の進捗状況、および、今後の計画について発表し、参加者とともに、意見交換をする場となった。

1. ワークショップ参加者内訳

(1) 大学病院	14人
(2) 官公庁/地方自治体	9人
(3) 民間企業	3人
(4) 大学/研究機関	2人
(5) 歯科開業医	1人
(6) 民間研究機関	1人
総計	30人

マニュアルの共有化

(2) 特に興味を持った内容

- Salo 先生、山川先生、澤口先生の講演は、現場からの声であり、特に興味を持てた。
- とても参考になりました。予想のつかない事態なので、ある程度の予想をつけた、準備が大切だと思った。
- 私は医療機器メーカーに勤めており、会社では中越沖地震においても地元医師会の要請を受け自動体外式除細動器（AED）を40台緊急貸出を行いました。医師の方に対する協力体制はこれまでの経験からわかりますが、歯科医の先生に対する協力、歯科医の先生が求めているもの（機械など）が分かりませんので、その勉強をするために参加しました。
- 個人識別（遺体の鑑定）については、自衛隊が協力できるのではないかと思った
- 住民の方にどんな専門職か明示した方が良い。管理栄養士とわかると専門的な質問をしてくれた。

2. アンケート結果

(1) 中久木班に期待する活動

- 現在歯科医師会などにあるマニュアルを比較、検討することを行い、より良いマニュアルガイドラインを作っていただきたい
- 災害発生時におけるコーディネーターの設置の計画調査を行うことにより啓発の実施
- 被災者のうち特に寝たきりの状態にある方に対する口腔ケアを歯科医療提供者（歯科医）に期待します。（高齢化の関係から）
- 縦のつながり、横のつながりの強化、モデル地区、モデル事業の設定、各々の集団におけるマ

(3) 研究班に対する要望

- 徳島を含む四国各県を南海地震に対する備え、歯科救護体制作りができていないとは思えない。近い将来地震が来ると予想されている地域の実態を調査して欲しい。保健所、歯科医師会、大学の連携を本研究班が指導できるよう成果をあげて欲しい。
- 管理栄養士さんの役割や必要性が今まで理解できなかった。今回初めてわかりました。
- 自衛隊と、地域・保健所などとの意見交流の場を増やすべき。
- Phase 0, 1 の歯科活動、個人識別において、全国 200 余名の自衛隊・歯科医官を活用できるのではないか・・・

2. 質疑応答やワークショップ後の意見交換であがった意見

<山川先生への質問>

Q: 歯科の治療の方は、ご本人や家族からの要望がないとできないということがあるのですが、口腔ケアの場合はどのようにされたのでしょうか？先生方が必要があると思えば、もう先生方でやれるのか、やはりご本人からの「やってほしい」という要望がないと始められなかったのか？

山川: 口腔ケアの場合は、特別にニーズが挙がってくる前からもう始めた。避難所の見学に行ったようなときに、被災直後に5名ほどやってくれないかという患者さんがいた。大きな、市から「やってください」という要望は、なかった。ひとつの避難所でやれば、別の避難所でも、こちらの避難所でも、「やってくれるんだね」という要望はあがった。実際、「口腔ケアに来てくれ」というところはあまりなかった。ただし、1回行ったらレポートはあった。

特に福祉避難所が多かった。柏崎の歯科医師会は、特養の施設と契約を少し結んでいるところが9施設ほどあって、協力歯科医という体制を置いている。担当医を置いておくという形ですが、そちらの方で、ニーズが挙がってきた人は担当医が診るからというような形もありましたので、福祉

避難所、施設に関しては、その後診ていて、支援する側は本当に巡回という形に徹底できた。

<澤口先生の講演へのコメント>

- 今後、被災地の活動で、保健師と自衛隊の連携がすごく重要。
- 赤十字も個別に活動しているのですが、やはり保健師さんとの連携がうまくいっていなかったと。
- ボランティアが本来、それぞれ行った地域で資格者たちが行っているのですが、雑用や、運転手になったり、本来の用途とは違う方向で動いていた。ぜひ今後の課題として我々も検討していきたい。
- 厚生労働省でDMAT班が他府県から来ているのですが、遊んでいる状態だった。
- 管理栄養士さんなど後方支援される部分の方々や、薬剤師さんなどのグループを立ち上げて新たな組織を作る必要性を十分感じました。

<寺岡先生の講演への質問とコメント>

- 災害時の救護活動以外に、遺体搬送および、そういう訓練を赤十字では行っているようだが、死亡判定時の身元確認などは、具体的に歯科医師の方々はどのような体制で参集されて、どういう形で動かれるのか？
- 東京都の場合、首都圏直下型地震で約1万2000名の方の死亡判定推定のデータを出している。そうすると、各地域でそれだけの方の遺体を処置しなければならないという話になってくると、かなりの歯科医師の方々の動員がないと、がれきの下の遺体を搬出するだけでも相当時間を有すると思うが・・・。
- 歯科医師の大事な役割は歯による確認だと思う。法歯に関する教育は充分受けていない大学もある。歯科医師だから判定ができるというわけではない。
- 新潟県では、マニュアルを災害時の歯科医療救護活動と検死マニュアルという形で出した。県の歯科医師会に所属している人間は、警察歯科

医師会に入会しているということなので、とにかくそれを周知してほしいとのことだった。

- 検死の数が増えると、マンパワーが不足すると思う。

<その他>

- 児童館で子供たちの食生活が変わってしまった。
- 歯科医師会内部での災害時の対応へ考え方の相違について～歯科医師会内部の調整は、自分自身の診療室も被災していると、調整に苦慮する。
- 保健所行政における災害時の対応について～保健所は感染症・栄養改善・結核・母子保健が仕事のメインで、一人ひとりの服薬はできるが集団の公衆衛生には弱い。

以上

参考資料 1

拡大班会議(ワークショップ) プログラム

平成 19 年度厚生労働科学研究事業
Granted by the Ministry of Health, Labour and Welfare

大規模災害時における歯科保健医療の健康危機管理体制の
構築に関する研究班 ワークショップ

Workshop of Research Group for Construction of Health Hazard Management Organization
in Dental Health Care during Large-scale Disasters

プログラム

Program

2007 年 11 月 13 日 (火) 午後 1 時から
東京医科歯科大学 5 号館 3 階第 1 ゼミナール室

November 13th, 2007. Tuesday, 1p.m.
Tokyo Medical and Dental University

ご案内

本研究班は、大規模災害時における健康危機管理体制の構築に関して、今年度より独立して歯科保健医療の分野を担当しています。今回、過去の大規模災害時に活躍された先生方のお話を聞き、今後の方向性を検討するために、ワークショップを開催することとなりました。

まず、現場での危機管理に関わられた経験を、スマトラ沖地震の津波災害においてタイで个体確認などの業務に関わられたシニッカサロ先生、そして、さらにここ3年で2度の震災を経験された新潟県柏崎歯科医師会の山川尚人先生に、歯科としての現場の活動、その後の保健医療システムの構築などについて、講演をいただきます。更に、歯科保健とも関連の深い食の観点から、かねてより災害時のガイドラインを策定しておられる澤口眞規子先生に、その作成や運用に関わる工夫や苦勞などをお伺いしたいと思います。

続いて、地域保健行政の再構築に関する研究班において、保健所および歯科医師会における大規模災害時における歯科保健医療体制について調査された寺岡加代先生から、その概要と課題などについてご報告いただいた上で、本研究班から、その果たすべき役割と、現在の進行状況および今後の方向性について、簡単に報告させていただきます。

本研究班においては、歯科という枠にとどまらず、食という観点も含めての健康危機管理を対象としており、「地域横断的な健康危機管理体制の機能分化のあり方」に関する厚生労働科学研究の主任研究者をつとめられている河原和夫先生に、全体の総括をお願いしています。

お忙しいお時間をお集まりいただいた皆様との情報・意見交換の場として、意義深きものとなればと考えております。

2007年11月

中久木康一

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・顎顔面外科学

k-nakakuki.mfs@tmd.ac.jp

TEL 03-5803-5502(研究室)、5738 (外来) FAX 03-3813-5500

星佳芳

国立保健医療科学院・研究情報センター 情報デザイン室

keikah@niph.go.jp

TEL 048-458-6206(直通) FAX 048-469-0326(共有)

【開会挨拶】 Opening Address 13:00~

厚生労働省地域保健室

Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan

坂本友紀

Tomonori SAKAMOTO

【現場からの報告】 Reports from Disaster Sites 13:05~

司会 東京医科歯科大学

Tokyo Medical and Dental University

中久木康一

Koichi NAKAKUKI

"Disaster Victim Identification and Relief Activity by Dentists"

Assistant Professor, University of Oulu, Finland

Director of Public Dental Health Services, Town of Kemi, Finland

Sinikka SALO

新潟県中越沖地震における経験

Experience in Niigata Chuetsu-oki Earthquake

柏崎市歯科医師会・新潟県歯科医師会

Kashiwazaki Dental Association / Niigata Dental Association

山川尚人

Naoto YAMAKAWA

健康危機管理時の栄養・食生活支援体制における管理栄養士の役割

The Role of Dietitian for Nutrition/Diet Support in Health Hazard Management

岩手県奥州保健所 健康推進総括主任主査

Ohsyu Health Center, Iwate Prefecture

澤口眞規子

Makiko SAWAGUCHI

【備えの現状と分析】 Situation and Analyses of Preparation 15:05

司会 国立保健医療科学院 星佳芳
National Institute of Public Health Keika HOSHI

大規模災害時における歯科保健医療体制に関する実態調査

Survey of Dental Healthcare System Preparedness for Large-scale Disasters

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科教授 寺岡加代

Section of Health Care Education, Tokyo Medical Dental University, Japan

Kayo TERAOKA

【研究報告】 Reports from the Research Group 15:30

司会 東京医科歯科大学医療政策学講座政策科学分野教授 河原和夫
Tokyo Medical and Dental University Kazuo KAWAHARA

大規模災害時の歯科的資源と、本研究班に期待される役割

Dental Resources during Large-scale Disasters, and Expected Role of the Research Group

主任研究者 Chief Researcher

中久木康一 Koichi NAKAKUKI

大規模災害時活動に関する歯科医師卒前教育について

Undergraduate Education for Dental Students about Activities during Large-scale Disasters

分担研究者 Assigned Researcher

鶴田潤 Jun TSURUTA

災害時における保健医療の一環としての栄養士活動の考え方

Dietitians' activity during Disasters, as a Part of Healthcare System

分担研究者 Assigned Researcher

小城明子 Akiko KOJO

歯科医師と栄養士からの健康危機管理支援情報のインターネット配信

Internet Distribution of Health Hazard Management Support Information, from Dentists and Dietitians

分担研究者 Assigned Researcher

星佳芳 Keika HOSHI

演者略歴 Brief CV of Speakers

Sinikka SALO, PhD, D. D. S.

Education:

PhD, D.D.S., Clinical Specialist, Forensic odontologist,
Qualified in Administration, Qualified in Health and telemedicine

Work experience:

2007 – Present : Assistant Professor, University of Oulu, Finland
1991 – Present : Director of Public Dental Health Services, Town of Kemi, Finland
2005 – 2007 : Head of the Research and Development Unit of Sendai-Finland Wellbeing Center,
Business Development Director, Finpro Ry

山川尚人 歯科医師 Naoto YAMAKAWA, DDS

学歴 Education :

1982-1989 : 日本大学松戸歯学部
Nihon University School of Dentistry at Matsudo, Japan

職歴 Work Experience :

1989-1994 : 柴又歯科医院勤務
Shibamata Dental Clinic
1995-現在 : 山川歯科医院
Yamakawa Dental Clinic
2002-現在 : 新潟県歯科医師会学術部 部員
Scientific Division Member of Niigata Dental Association
2006-現在 : 柏崎市歯科医師会理事
Director, Kashiwazaki Dental Association

学歴 Education :

10年の生活改良普及員活動を経て、保健所管理栄養士となる

After 10 years of life improvement spreading activity, became a national registered dietitian at health centers.

職歴 Work Experience :

- 1999 厚生省主催「21世紀をめざす行政栄養士のあり方検討会」委員
A member of “Consideration committee of activities of administrative dietitian for 21st century”, Ministry of Health
- 2000 厚生省主催「保健専門職員の効果的活用に関する検討会」委員
A member of “Consideration committee of effective use of health specialists”, Ministry of Health
- 2005-2008 厚生労働省地域保健総合推進事業「健康危機管理時の食支援体制及び公衆衛生活動における保健所管理栄養士業務検討事業」座長（3年間）
Chairperson of “Consideration project of duty of national registered dietitian of health centers, for Nutrition/Diet Support system and public health activity in Health Hazard Management “, comprehensive regional health promoting project, Ministry of Health, Labour and Welfare
- 2008.Jan 「全国保健所管理栄養士会」結成予定
Preparing to organize “Committee of Japanese national registered dietitian at health centers”, on January 2008.

寺岡加代 歯科医師・歯学博士 Kayo TERAOKA, DDS, PhD

学歴 Education :

- 1974- 1979 : 大阪大学歯学部
Faculty of Dentistry, Osaka University, Japan
- 1979-1983 : 大阪大学大学院
Graduate School, Osaka University, Japan
- 1983 : 大阪大学歯学部 博士（歯学）取得
PhD in Osaka University, Japan

職歴 Work Experience :

- 1983-1984 : 大阪大学保存科
Department of Preserved Dentistry, Osaka University, Japan
- 1984- 2000 : 東京医科歯科大学予防歯科
Department of Preventive Dentistry, Tokyo Medical Dental University, Japan
- 2000-2004 : 東京医科歯科大学医療経済学分野
Section of Health Care Economics, Tokyo Medical Dental University, Japan
- 2004- Present : 東京医科歯科大学口腔健康教育学分野
Section of Health Care Education, Tokyo Medical Dental University, Japan

参考資料 2

拡大班会議(ワークショップ) 発表スライドと配布資料

Disaster Victim Identification and relief activity by dentists

Dr. Sinikka Salo, Ph.D., D.D.S., Forensic Odontologist
Assistant Professor, University of Oulu, Institute of Dentistry, Oulu, Finland

Summary

The purpose of forensic dentistry is to support officers to solve civil or criminal cases by the means of dentistry. The tasks of forensic dentist are as follows: personal identification, age assessment based on dentition, traumas of oro-facial area, bitemarks, anthropological and archeological cases, jurisprudence and expertise in dental cases. Forensic dentistry will offer a great benefit especially in mass disasters, where the number of deceased and magnitude of devastation are enormous. Identification of disaster victim can be done by visual identification, circumstantial evidence and physical evidence. In several disasters it has been seen that among the physical evidences, dental data are the most effective method of identification, followed by fingerprint and DNA. Personal identification based on dentition is a fast and reliable method. Identification of a victim is a comparison of data formed during the life (ante mortem) to the data gathered after the death (post mortem). Based on the comparison of these data, the identification report will be given. Interpol forms are used for identification in all Interpol countries (www.interpol.int). Some software have been created to assist identification procedure in mass disasters. Personal identification is based on several data from police, medical doctors, fingerprint- and DNA- experts, as well as forensic dentists. Dental identification is based on the number of existing teeth, missing teeth, restorations, oral diseases, traumas, attrition, malocclusion, dental x-rays, dental clinical images, age, and gender. In December 2004 the Asian tsunami disaster resulted in devastation of nature, infrastructure and people. More than 200,000 people were killed when the earthquake triggered giant waves that hit twelve countries around the Indian Ocean. In January 2005 the Thai Tsunami Victim Identification Information Management Centre (TTVI IMC) was established in Phuket, Thailand. The task of the centre was to collect the antemortem and postmortem data and carry out the comparison of those in order to identify the bodies. The contribution of forensic odontology to tsunami victim identification was indisputable.

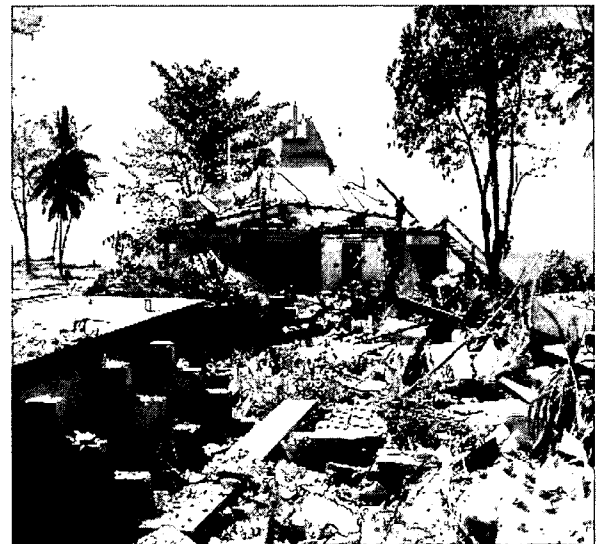


Photo 1 and 2. Devastation after tsunami waves was enormous



Photo 3. Dental post-mortem includes radiographic examination

Photo 4. Forensic experts in front of Thai Tsunami Victim Identification Information Management



Centre (TTVI IMC), Phuket, January 2005

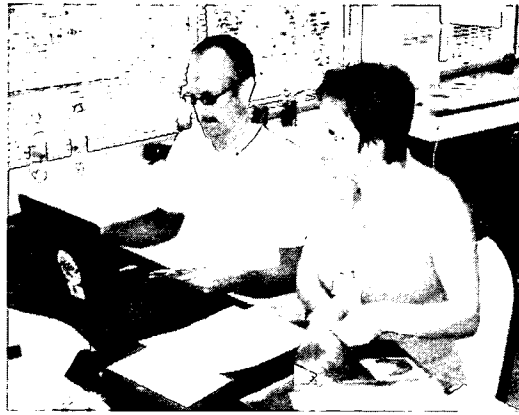


Photo 5. Dental reconciliation at TTVI IMC, Dr. Rihtniemi and Dr. Salo

Photo 6. Dental experts from several countries participated Thai Tsunami Identification task



Photo 7. The memorial of deceased in Khao Lak